

乳がん検診を受診される方へ

乳がんの現状

乳がんは、わが国の女性のがん死亡の上位に位置し、生涯乳がんを患う日本人女性は、現在9人に1人と言われており、30歳代から増加しはじめ、40歳代後半から50歳代前半にピークを迎え、比較的若い世代で多くなっています。

検診の有効性

がん検診の目的は、早期発見によりそのがんで死亡する可能性を減少させることです。乳がん検診では、40歳以上の女性は2年に1回のマンモグラフィ検査が有効とされています。マンモグラフィ検査は、石灰化のある乳がんの発見に適しています。しかし、どのように優れた検査でも100%の精度ではありません。ごく初期の段階では、しこりもわからないほど小さく、痛みや体調不良などの自覚症状もないことが多く、がんが発生した時点から一定の大きさになるまで検査で発見することはできません。また、本来生命に影響しない、微小でその後も進行がんにはならないがんが見つかる場合もあります。がんではないのに、「要精密検査」と判定され、精密検査を行ってもがんが見つからず、結果的に不必要な精密検査や治療を受けなければならない場合も多くあります。

乳がん（マンモ）検診を受診できない方

- ・妊娠の可能性がある方、または妊娠中の方（胎児へのマンモグラフィの安全性が証明できないため）
- ・ペースメーカーを装着されている方（ペースメーカーに圧力がかかり破損する可能性があるため）
- ・豊胸術や乳房再建手術をされて、乳房にシリコン等の人工物を入れた方（所見を十分に映し出せない可能性が高く、シリコンパック等が破損する可能性があるため）
- ・胸部にリザーバー（ポート）の装着や、V-P シャントカテーテルを施行している方（胸部のリザーバー（ポート）やV-P シャントカテーテルが破損する可能性があるため）
- ・授乳中の方
- ・乳がん手術や乳房再建手術をされてから、1年未満の方

乳がん（マンモ）検診の受診前に必ずかかりつけ医にご相談していただきたい方

- ・乳がん等で医療機関において、治療中の方及び経過観察中の方
- ・1か月以内に胸部や上腹部の皮膚を切開、縫合したりする手術をした方は、かかりつけ医に創部に圧迫を加えても問題ないかご相談ください。
- ・ワーファリン等（血液を固まりにくくする薬）を服用している方、または出血すると血が止まりにくい方は、マンモグラフィ撮影時の乳房の圧迫で内出血をきたすことがあるため十分ご理解のうえ受診してください。

乳がん（マンモ）検診の受診の際の注意事項

- ・制汗剤（パウダー等）やボディクリーム等は病変と間違えて映し出す可能性がありますので、何もつけずにご受診ください。
- ・湿布・磁石入り絆創膏・カイロ・ネックレス・大きめのイヤリング等ははずしてください
- ・長い髪は後ろにまとめてください。
- ・当日は、着脱しやすい服・靴で受診してください。
- ・圧迫して母乳が出るような断乳して間もない方、乳腺の厚さが非常に薄い方は、検査ができて、判定不能となる可能性があります。
- ・検査当日、体調の悪い方は検診を控えてください。

検診結果について

- ・マンモグラフィ検査（視触診併用）による乳がん検診を受けると、受診者の約 8%の方が「要精密検査」となり、精密検査を受けた方の中には乳がんと診断される方がいます。「要精密検査」という結果を受け取った場合には、必ず精密検査を受けてください
- ・40歳以上の女性は2年に1回は検診を受けてください。
- ・乳がんを放置しているとリンパ節や他の臓器に転移しやすいため、少しでも違和感があれば、次の乳がん検診を待たずに医療機関（外科、乳腺外科）を受診してください。

精密検査の方法

マンモグラフィ検査や乳房超音波（エコー）検査で、病変が疑われた部位を詳しく観察します。乳房MRI検査や乳房CT検査で病変が疑われた部位を撮影したり、造影剤を注射して撮影することもあります。穿刺吸引細胞診などでは、疑わしい病変が見つかった場合、細い注射針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうかを調べます。

精密検査が受けられる医療機関

- ・精密検査を受けられる医療機関については、三重県ホームページをご参照ください。
- ・受診可能かどうかを事前に病院へお問い合わせのうえ、受診してください。

三重県ホームページ：『三重県がん検診精密検査医療機関登録制度について』

<https://www.pref.mie.lg.jp/KENKOT/HP/000118956.htm>



* 検診は各医療機関と自治体が連携して行っています。検診結果や精密検査の結果については、厚生労働省等の指針・ガイドラインに基づき、精度管理等に必要な情報を関係機関等と共有します。